



調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

○全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することによって、国や全ての教育委員会における教育施策の成果と課題を分析し、その改善を図る。

○学校における個々の児童生徒への教育指導や学習状況の改善・充実等に役立てる。

○そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

★結果について★

【概要】

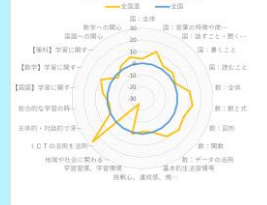
国語、数学、理科ともに、いずれの領域においても、全国と比較して、これまでと同様平均正答率を大きく上回っています。また、例年と比較して、どの教科も無解答率が低く、好ましい結果です。

生徒質問紙から、ICTを活用した学習状況では、全国と比べても非常に高く、良く活用できている状況であります。地域や社会に関わる活動については、全国と比べても大きな開きがあります。「生活習慣」「学習習慣」に継続して良い傾向が見られますが、「自己有用感」「自己肯定感」「規範意識」については、課題が残ります。

R7【教科・観点】全国差



R7 国語・数学・生徒質問紙



【強み・弱み】分析

- 基本的な生活習慣が身についています。
- 基礎的・基本的な知識および技能が身に付いており、問題に粘り強く取り組む姿勢があります。
- 学校生活をよりよくするために、学級活動で話し合い、互いのよさを生かして解決方法を決めている。
- ICT機器を使うことには長けており、資料や文章、話の組み立てなど工夫して発表する力があります。
- 「地域行事への参加」や「地域や社会へ貢献」への意識が低い状況にあります。
- 地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることは、低い傾向にあります。
- 自然の中で遊ぶことや、自然観察をすることは、低い傾向にあります。
- 「自己肯定感」「自己有用感」等に関する項目において、全国と比べると少し低い状況にあります。

★指導の充実に向けて★

- 各教科や道徳、総合的な学習の時間において、生徒が「めあて」を共有することで、見通しをもって学習に取り組む、主体的に学ぶ意欲を高めます。また、校内研究で取り組んでいる「主体的・対話的に学べる生徒を育成するには」の観点から、生徒自らが発見し、共に学べる仕組み作りの構築を目指していきます。
- 各教科では、根拠や理由を明確にして自分の考えを表現できるよう、その過程を大切にします。また、一人一台端末の活用により、自分の意見を他者へ伝えたり、他者の考えをふまえて、自分の考えを広げたり深めたりする対話的な学習を効果的に行い、説明する力（プレゼンテーション力）を身につけ、思考力・判断力・表現力を今後も育てていきます。また、保護者や地域の方にプレゼンテーションする姿を公開していきます。
- 各教科では、学習したことや教科書などから読み解いたことを自分の言葉でまとめる「振り返り」の場面を設定し、家庭学習の充実によって、学習内容の再構築を図り、深い学びにつなげます。また、答えに向かう方法・手段について多様な方法があることを知り、試みます。
- 人権教育や道徳教育を充実させ、仲間と協働し物事を成し遂げる機会を設定することで、寛容の心や他者の気持ちに思いを巡らそうとする態度や姿勢を育み、公共の精神や友人への思いやりの心の向上に努めます。
- 一人一役の係活動や仕事を担当し、日常の学校生活や教育相談などで本人の良さや頑張りを認めるなどの支援を継続し、PTA、地域の方との連携を推進しながら、自己有用感を育てていきます。また、コミュニティ・スクールを窓口として、各地域諸団体と連携しながら、生徒の地域社会への参画について、共に考えていきます。